



(有) 安土堂書店



〒152-0035 東京都目黒区自由が丘 2-8-12-103 Tel. & Fax 03-5731-8608

e-mail: azuchido@nifty.com

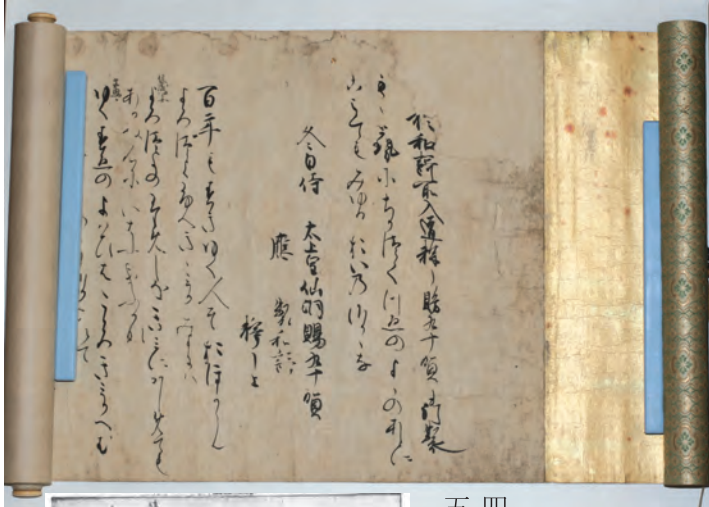
俊成九十賀記 原本出現！ 定家、為家自筆

1 賜釈阿九十賀記

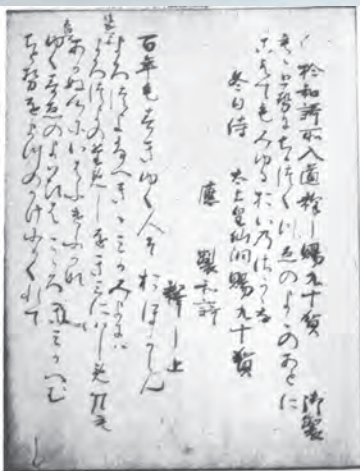
一卷 Price upon Request

於和歌所入道釈阿賜九十賀 建仁三年十一月二十三日
表装は江戸前期頃。紙高三〇、七糎、五枚継ぎ。

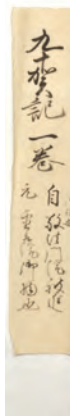
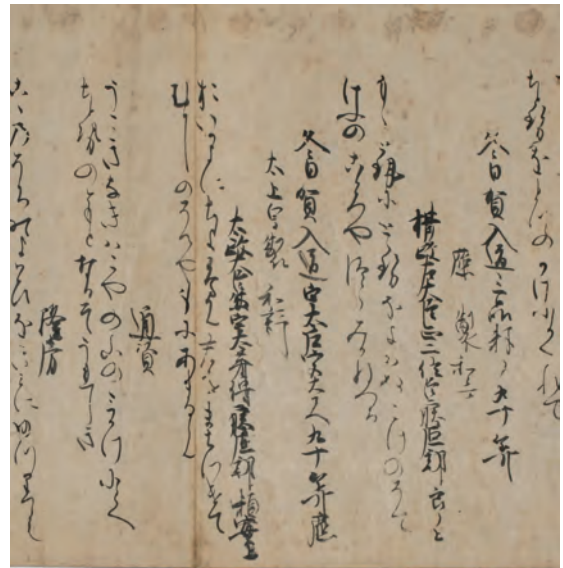
伝来は添紙より、東山天皇に進ぜられたことが解る。敬
法門院は靈元院の典侍で東山天皇の実母。貞享二年及び同
五年頃、和歌に造詣の深かった靈元天皇は、冷泉家から数
百点の古典籍を宮中に運ばせて公家らに写させた。このと
き手元に残した原本と推察される。



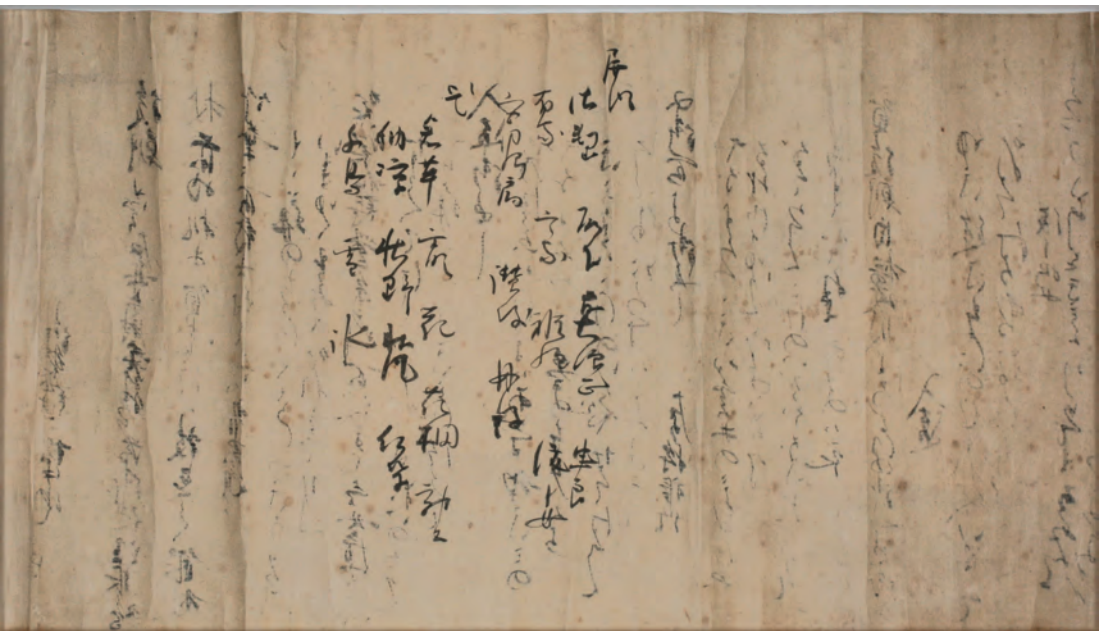
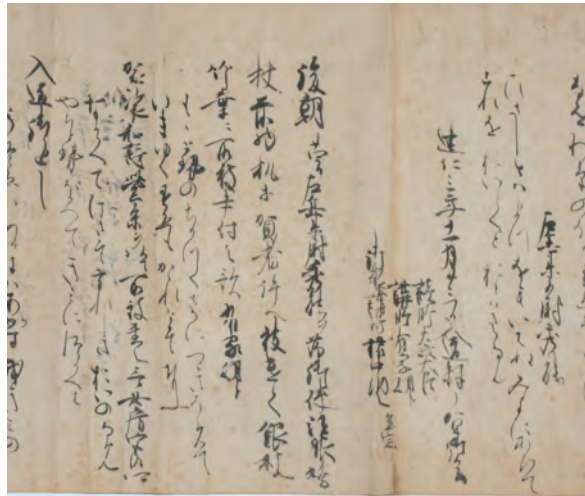
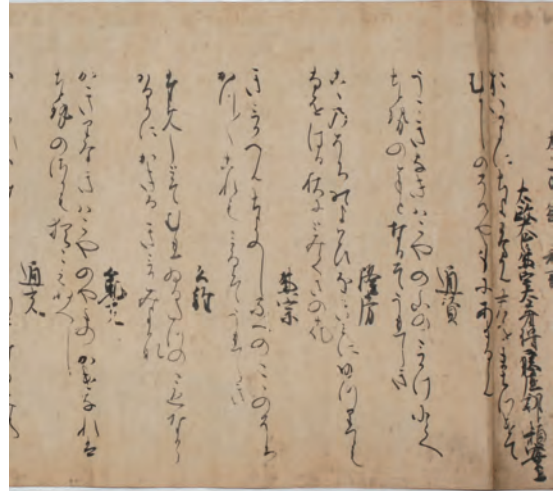
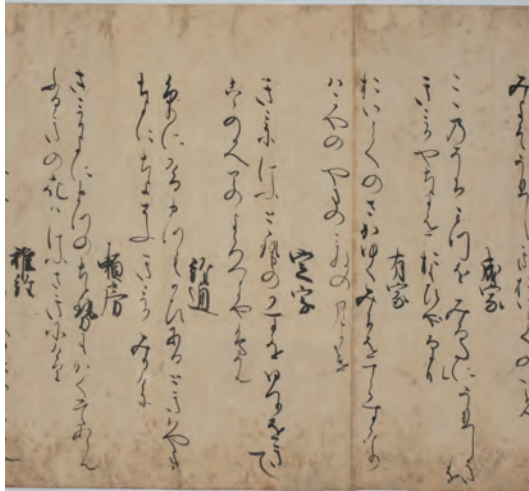
四首目上に「俊成卿女」
五首目上に「宮内卿」と。



この原本からの写本、尊経閣蔵



箱書き「九十賀記 定家 為家
卿筆 一卷」
添紙「九十賀記 一卷 御親母 自
敬法門院被進 元靈元院御物也」



尊経閣写本では、「通資」を「通賢」とし、「公経」を「久経」と誤っている。

巻末一紙は定家筆
 「屏風 御製 殿下・・・定家」
 「題 若草 霞 花・・・氷」
 及び紙背文字。

2 徳川家康宛 従一位位記起草 断簡

慶長七年正月六日 鳥丸光広奉 宿紙

「天皇御璽」印 一卷 九九〇、〇〇〇円

「徳川家康従一位位記」は日光東照宮蔵。この起草断簡との違いは、

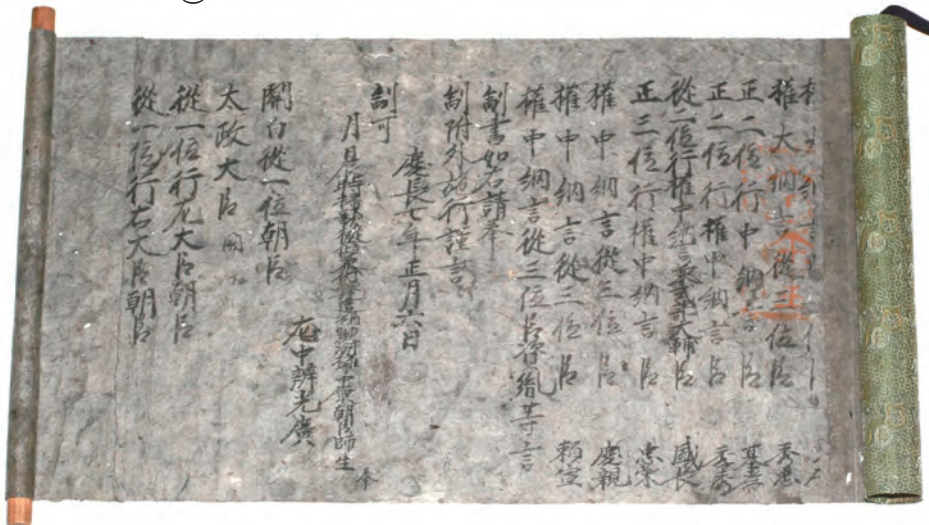
「権大納言従三位臣 秀忠」が東照宮位記から抜けたこと、「正三位行権中納言 忠栄」の官位が正二位になったこと。

秀忠は一月八日に従二位に昇叙するので、あえて抜いたのか。忠栄はこの日正月六日に「従二位」に昇叙した官位が反映された。

要するにこの起草段階での内容が当日に二箇所訂正された。断簡とは言え位記起草が出現したことは、叙位議前後の進行過程が解る、極めて重要な史料である。

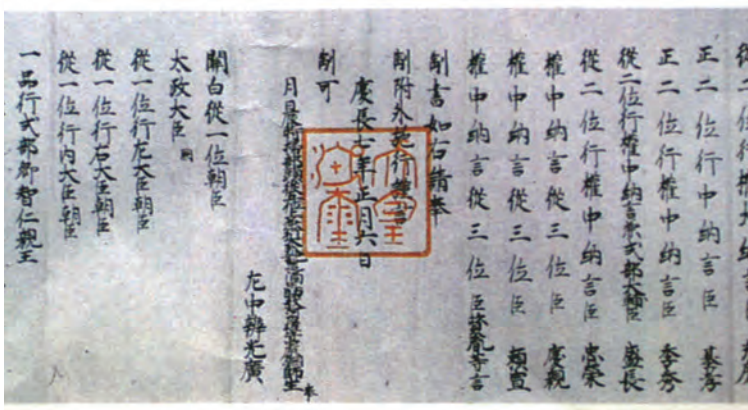
通常正月六日に叙位議（加叙の会議）があり、七日の白馬節会で位記が授与される。

徳川家康は、慶長七年正月六日に従一位に、翌年二月十二日に征夷大將軍となった。



日光東照宮蔵

「徳川家康宛 従一位位記」部分



日光東照宮蔵

「徳川家康宛

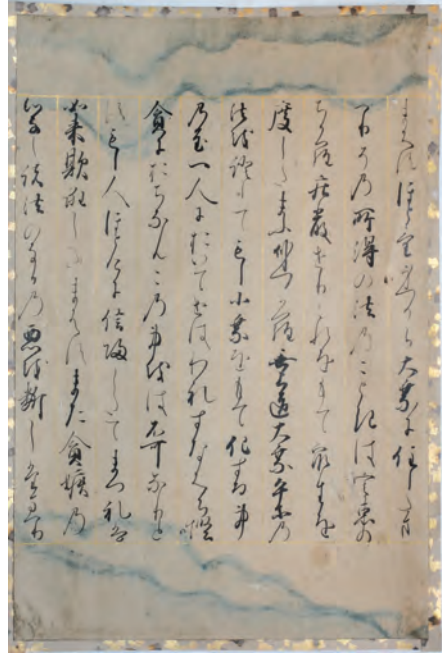
「従一位位記」

全文



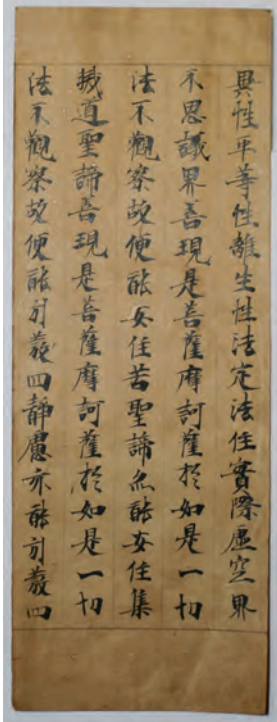
4 仮名法華經切 世尊寺行尹筆 (1286-1350)

漢字仮名交り文 十行 一紙 一九八、〇〇〇円
料紙は青雲の打曇、金界、紙高27.9cm、界の高
々20cm、界の幅1.8cm、天も地も広い。
裏に「世尊寺行尹 縁起切」の墨書きがある。



3 平安古写経断簡 五行 黄麻紙

25.5×9.3cm 一紙 五五、〇〇〇円
能筆、溜め漉き、裏打ちなし。



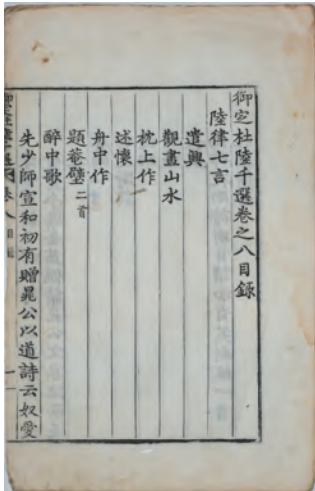
「去年八月廿九日於奥州若松城下
合戦之時粉骨相働・・・」

有地は、長州藩先鋒隊員、明治
に海軍中将。

5 朝鮮銅活字版 零葉 一八世紀

「御定杜陸千選」 大本

一丁一枚 五、五〇〇円

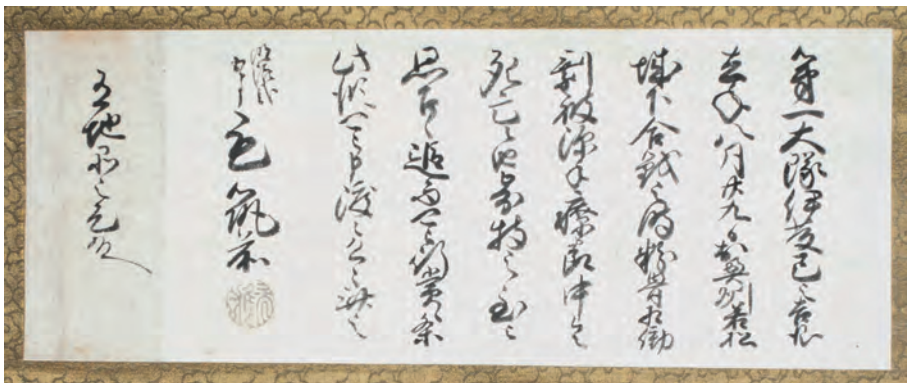


戊辰会津戦、最後の感状

6 毛利元亮書状 有地品之

允宛 明治二年五月日 右
田毛利家当主通称筑前

一幅 五五、〇〇〇円

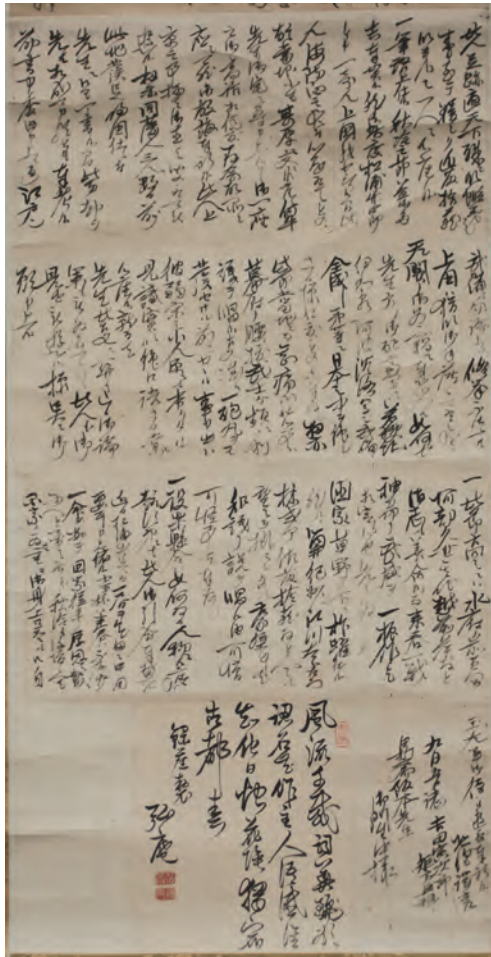




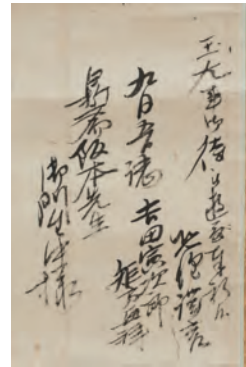
一段目・藤田東湖、二段目・頼三樹三郎、三段目・日下部伊三次、四〜七段目・吉田松陰、七段目・藤森弘庵



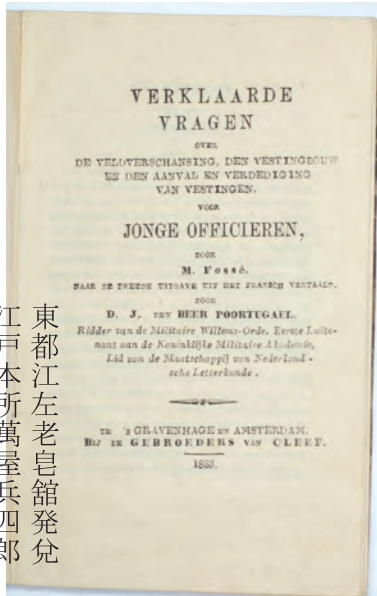
巻絹の合装者名 諸旧蔵朱印



翌年のペリー艦乗り込みへの決意が述べられている
7 吉田松陰自筆書状 阪本鼎斎宛 嘉永六年九月五日
癸丑来殉難諸彦遺墨 合装 一幅 一、六五〇、〇〇〇円
「小生拝は来春は及ばずながら一命を抛ちて国家従
来の厚恩に報ゆべしと勇み居り奉り候・・・」
松浦武四郎紹介状として同氏に託した書状。阪本は大
坂を代表する砲術家。『吉田松陰全集』収載。



東都江戸左老皂館発兌
江戸本所萬屋兵四郎



蕃所調所翻刻本

8 築城書 フォッセ著
安政5年(1858)蕃書
調所刊 伝本稀少

1冊 ¥880,000

原書は1833年刊、8vo、
19×11.8cm、前付4枚、
108pp。正誤表1枚、和
紙両面刷り、アンカッ
ト部分も残る未使用本、
保存極良。表紙擬マー
ブル模様。オランダ寄
贈のスタンホープ印刷
機で活版印刷。

9 絵馬 長谷川等玉信雪筆 元禄二年四月十八日 奉掛御宝前馬形 高田下田野田五郎右衛門 110×142cm、等玉は等伯の娘婿に師事。越後で活動。¥330,000



右下「皂鵬クマタカ若鳥 文政十一年二月十四日 養福」



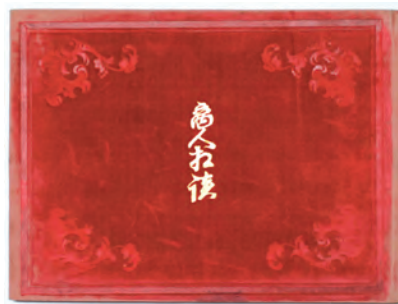
11 中山養福画 鷹図 徳島藩絵師 雁皮紙 一枚二七五、〇〇〇円 79×40cm まくり

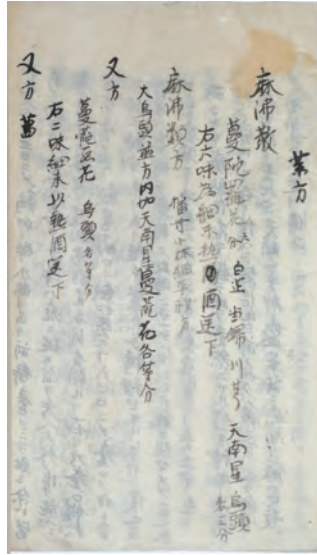
10 佐藤一斎草稿「亡友間大業碑銘叙」 文政五年閏正月朔 木版罫紙 三枚一六五、〇〇〇円 訂正箇所有り。間重富は文化一三年没、六年後に佐藤一斎が碑文を作成。



「商人相談」金文字

12 和英商賈對話集 Shopping-Dialogues ホフマン編 1861年 ハーグ及びロンドン刊 1冊 550,000円 本木昌造の『和英商賈對話集』安政6年(1859)刊にオランダ文を加えて刊行。流布の紙表紙に対し赤ビロード特装版。14×19cm、44頁、漢字・片仮名オランダ製活字で印刷。

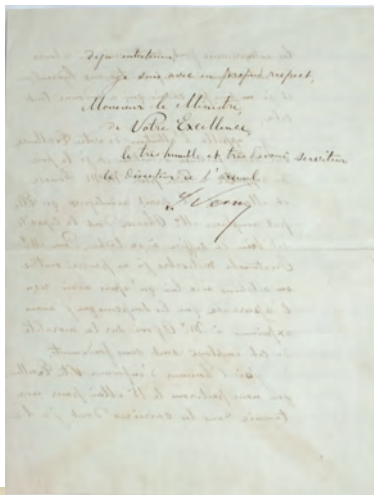
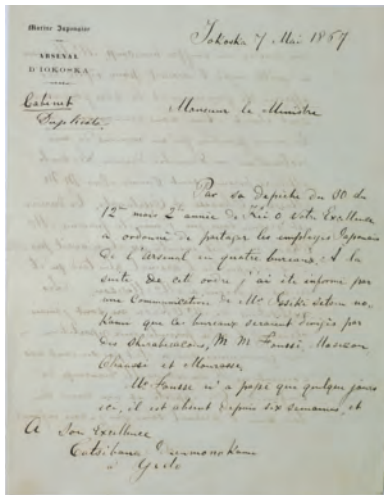




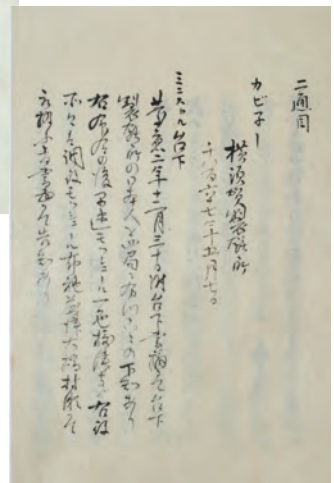
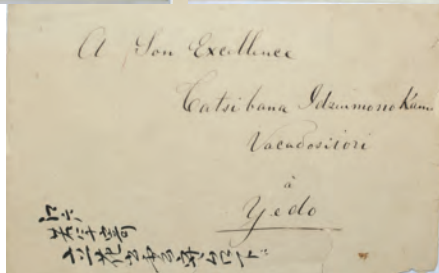
世界初、全身麻酔の乳癌手術 麻沸散治験
 13 青洲先生乳岩治法 華岡青洲口授 文化
 後半頃(一八一〇〜一八一八) 写 外題「春林軒乳岩
 法」、内題「青洲先生乳岩治法」 半紙判本
 文七丁、一〇〇五丁 兎口治術七丁・包帯
 巻き方六丁付。一冊 一、六五〇、〇〇〇円
 「麻沸散」 蔓陀羅花 六分 白芷 当帰 川
 芎 天南星 烏頭 各三分 右六味為細末熱
 酒送下」

危険が伴う為青洲は治法を残さず。門人千葉良蔵の「辨乳岩証并治法艸稿」からの写本が京大富士川文庫にある。残存数部の稀少本。

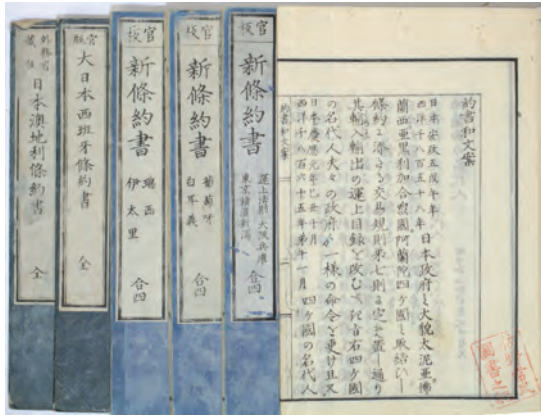
14 横須賀製鉄所首長ヴェルニー自筆書簡 若年寄立花出雲守種恭(製鉄所掛)宛
 1867年5月7日(慶応3年4月4日)付 4頁 封筒付 通詞訳付 1通 ¥880,000
 “Marine Japonaise/Arsenal D’ IOKOSKA” 用箋 「慶応二年十二月三十日附台下書翰
 にて台下製鉄所の日本人を四局ニ分ツことの下知あり・・・モッシュール小栗に弁解
 および至し予か疑惑の事ニ付跡方もなき旨の談合を・・・見合の為五月十五日コノ所



去ることを予台下ニ告知す / ミニストル台下の忠僕 / 製鉄所首長 / エル、ウェルニー」
 le directeur de
 l’ Arsenal/L Verny.



「佐野常民図書之記」朱印4冊に
15 官版 新条約書 明治元年7~9月
 大坂運上所刊 西班牙・奥地利は明治3
 年刊 半紙判 6冊 ¥88,000



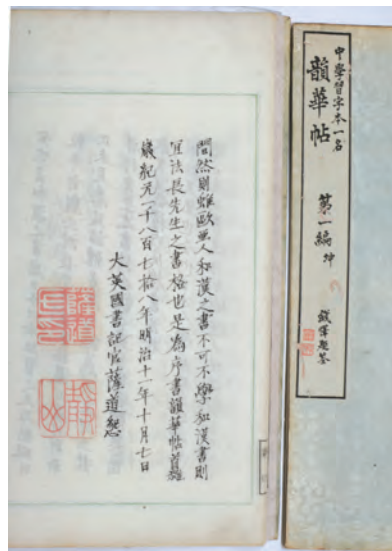
忘れられていた龍馬の名を復活させた書
16 汗血千里駒 雑賀柳香編 明治16年
 7月26日~10月8日 京橋区南伝馬町
 摂陽堂刊 3編 ¥165,000



17 日新真事誌 第一号 猯刺屈ブラック主筆
 明治五年三月一七日 一紙 五五、〇〇〇円
 東京築地新栄町五丁目 52×37.3cm, 四頁
 「先ツ木板ノ活字ヲ以テ間ニ合セ」木活字刷

政府布告、貿易、博覧会、商店
 広告、横浜停泊船など。

E. サトウ、デュ・ブスケ等筆跡
18 中学習字本一名 韻華帖 第一編
 乾坤 明治11年 児玉少介刊 美濃判
 57,64丁。 2冊 ¥66,000



長三洲題字、何礼之序、細川潤、山田顕義
 吟香、李鴻章など。



19 大平正芳メキシコ市名誉市民証
 ヴェラム 37.5×58.5cm 1枚 ¥55,000
 1980年5月2日 首相として訪問。
 帰国後6月12日急逝。